
流通BMS 共同実証参加企業による パネルディスカッション

共同実証参加企業

1. スーパー業界

平成20年度に策定されたメッセージ及び物流ラベルの実用性を検証し、普及拡大に向けた課題を把握する。

2. 百貨店業界

流通ビジネスメッセージ標準および利用ガイドラインの妥当性・有効性の確認と、実用化に向けた課題の整理・検討を行い、実運用につなげていく。

3. チェーンドラッグストア業界

商品マスタデータの伝達及び説明文書の伝達に関する実運用への移行が可能であることを確認する。

流通BMSの実運用への移行可能性を確認する。

4. ホームセンター業界

業界特有の商習慣や業界を象徴するDIY商材においても、流通BMSが適用出来ること及び導入効果を検証する。

スーパー業界共同実証の方針

経済産業省 平成20年度
流通システム標準化事業

(1) 共同実証の前提

期間	業務運用 2008年11月～2009年2月
業態	スーパー業界
商品カテゴリ	加工食品・日用品 および 新カテゴリ青果水産
業務	6業務8メッセージ および 新規メッセージ
メッセージ・スキーマ	基本形Ver 1.2 および 生鮮Ver 1.0
接続形態	N対N(小売対卸・メーカー) マルチベンダ環境
プロトコル	ebXML MS、AS2、JX手順

(2) 共同実証の目的

1. メッセージの精度向上

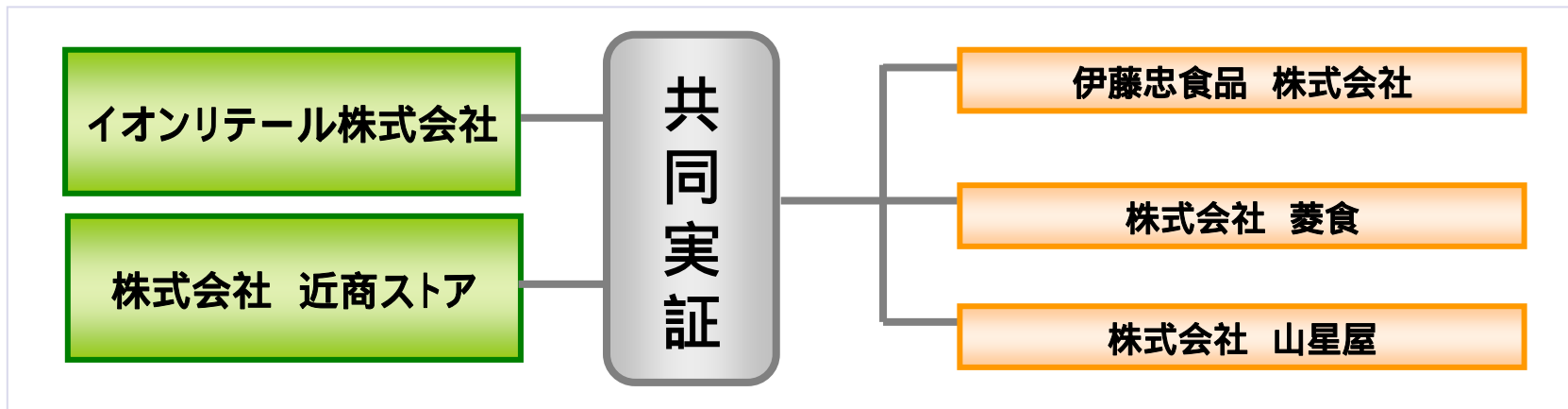
- ◆ H20年度は「メッセージの拡充期」のため、新メッセージ・新カテゴリの検証を実施し、その精度を確保する。
 - (1) H19年度までの未実施カテゴリ(青果・水産など)において、既に公開されているメッセージの有効性を確認する。
 - (2) 新規に定義される業務プロセスで利用される新メッセージの検証し、運用ルールの有効性、仕様の妥当性を確認する。

2. 普及拡大に向けた導入効果の検証

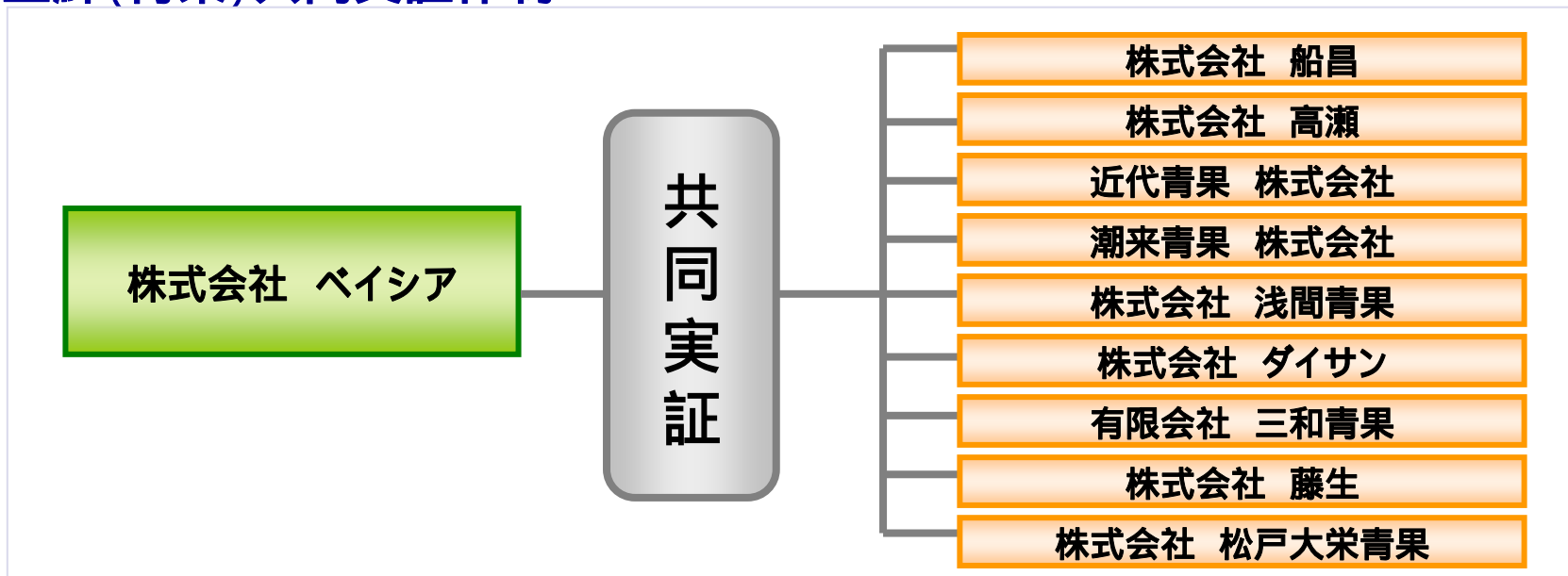
- ◆ 流通BMSが今後、広く普及することの確信と、普及促進のための課題を把握することを目的とする。
 - (1) 新規に定義される業務プロセス/メッセージの導入効果や、未実施のカテゴリにおける流通BMSの導入効果を定性的・定量的に実測することで、その効果を検証する。
 - (2) 上記検証結果をもとに、メッセージやガイドライン類などの変更要否を検討し、普及のための精査を行う。

スーパー業界共同実証体制図

預り在庫共同実証体制



生鮮(青果)共同実証体制



スーパー業界共同実証体制図 (物流ラベル)

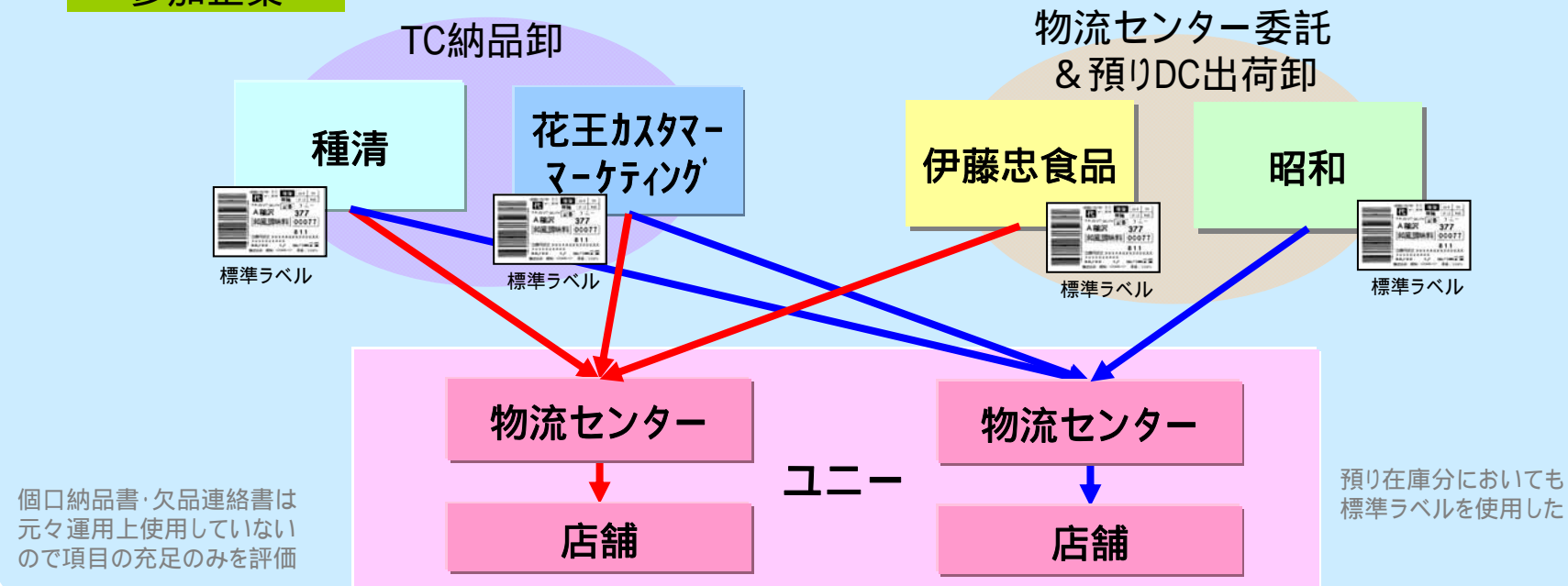
共同実証の目的

1. 標準化検討で策定した物流ラベル / 付帯帳票を実運用し、発生する仕様・運用課題を解決し標準ラベルの精度向上を図る。
2. 流通BMSのメッセージで正しく物流ラベルなどにマッピング作業が正しくできたか、発注～支払までの運用が正しくできたかを検証する。

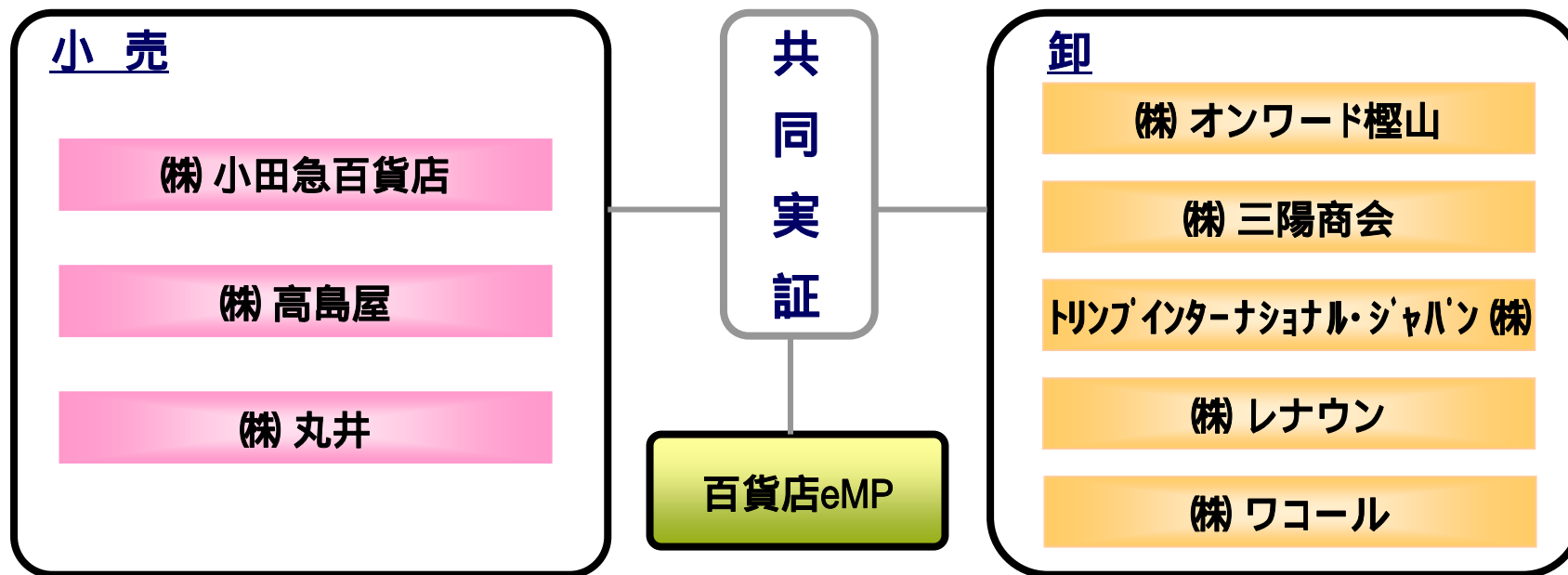
評価概要

1. 運用評価 規定項目のマッピングの確認、マテハンによる確認、目視による確認
2. データ評価
3. 運用評価の方法 トランザクションデータおよびログの確認

参加企業

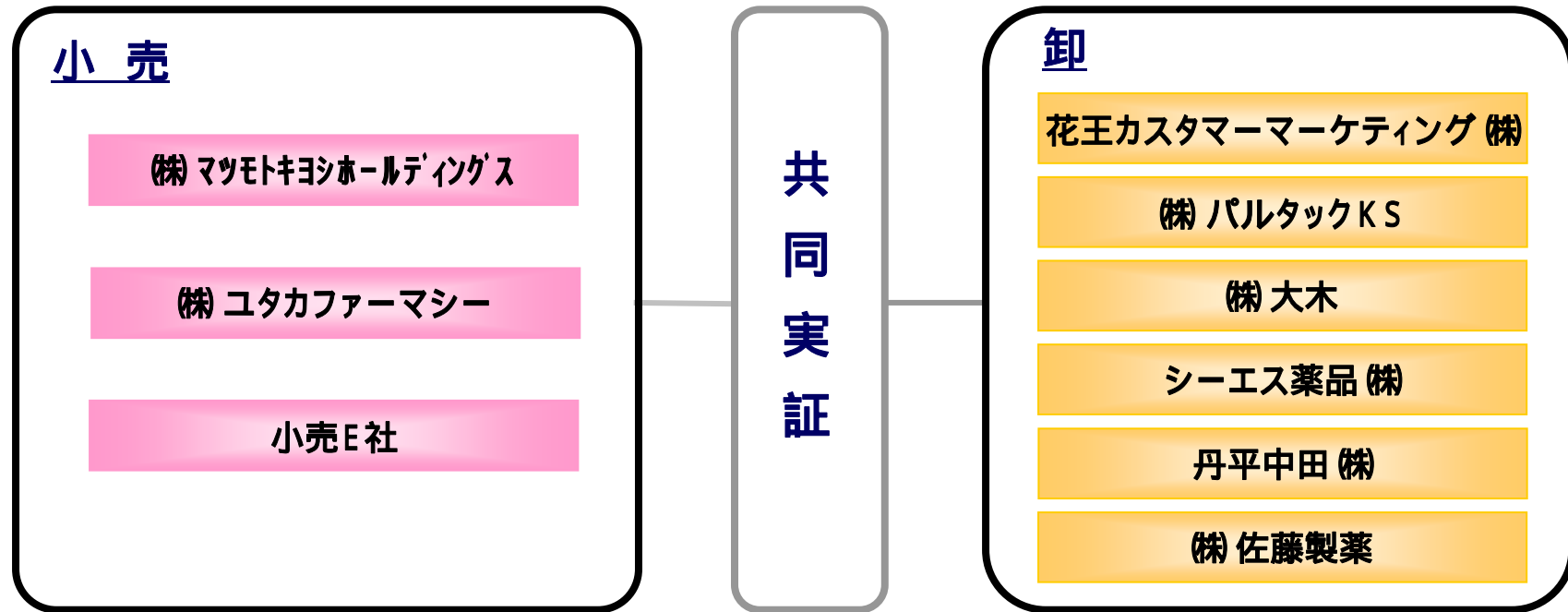


百貨店業界共同実証体制図



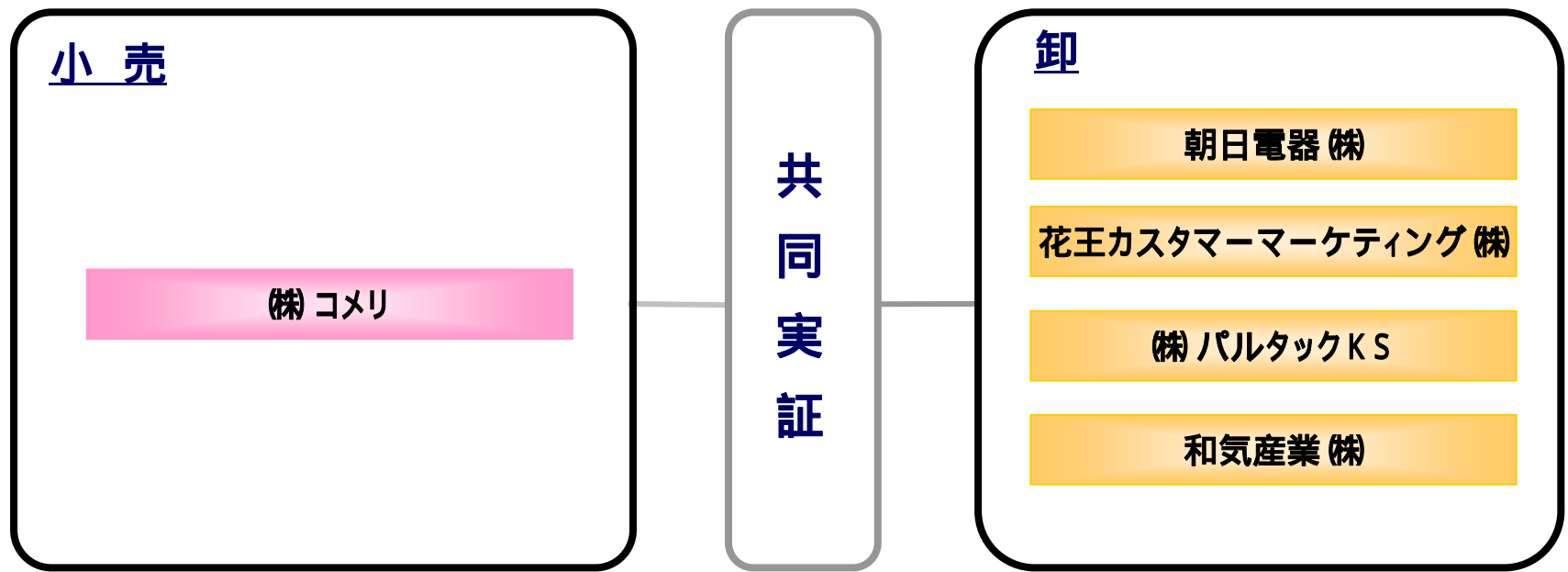
メッセージ	10メッセージ 百貨店Ver1.0 [全26メッセージ]
接続形態	N対N(小売対卸・メーカー) マルチベンダ環境
プロトコル	ebXML MS、JX手順

チェーンドラッグストア業界共同実証体制図



メッセージ	10メッセージ Ver1.2
接続形態	N対N(小売対卸・メーカー) マルチベンダ環境
プロトコル	ebXML MS、JX手順、AS2

ホームセンター業界共同実証体制図



メッセージ・スキーマ	8メッセージ Ver1.2
接続形態	N対N(小売対卸・メーカー) マルチベンダ環境
プロトコル	ebXML MS、JX手順、AS2